

2-3 高齢者福祉の推進

高齢者が生きがいを持ち、住み慣れたまちで自分らしくいきいきと生活できる環境づくりを進めます。

■施策の展開内容

高齢になっても住み慣れた地域で自分らしく健康にいきいきと生活できるよう支援します。

また、地域での見守りを推進するとともに、地域包括ケアシステム（※1）を充実し、安心して暮らせる地域づくりを目指します。

（※1）地域包括ケアシステム

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みのこと。

■現状と課題

- 地域コミュニティの希薄化が進むとともに、ひとり暮らしの高齢者が増えています。高齢者が地域と関わりながら、生きがいを持って健康に暮らせる環境を整えていく必要があります。
- 高齢者人口の増加にともない、要介護認定者、認知症高齢者の一層の増加が見込まれています。地域共生社会の構築を見据え、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自立した日常生活を送ることができるよう、限りある社会資源を効率的かつ効果的に活用しながら、医療、介護、予防、住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」をさらに推進していく必要があります。
- 団塊の世代が後期高齢者となることで、介護ニーズが急速に高まり、介護サービスの担い手や施設の不足が見込まれます。介護を必要とする方が適切なサービスを受けられるよう、介護サービスを充実させる必要があります。

■主な取組

健康でいきいきと生活できる環境づくり

- 高齢者が生きがいを持って充実した生活を送ることができるよう、地域で住民同士が交流できる場や健康づくりに参加できる環境を整えるとともに、就労機会の確保に努めます。
- 高齢者が介護予防の必要性を理解し、身近な地域で自ら介護予防に取り組むことができる環境を整えるとともに、適切なサービスなどにつなぐことで疾病予防・重症化予防を推進します。

地域包括ケアシステムの充実

- 高齢者やその家族からの相談に対して、関係機関と連携しながら課題解決に向けた支援を実施します。
- 高齢者の意思を尊重した最適なサービスが利用できるよう、介護サービス計画に係る情報の共有とケアマネジャーの資質の向上を図ります。
- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、市民団体や福祉サービス事業所など、あらゆる主体と協力しながら、身近な場所で必要な生活支援サービスを利用できる環境をつくります。
- 認知症高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、認知症の早期発見、早期支援を行うとともに、認知症を正しく理解し、認知症高齢者とその家族を地域で支える取組を進めます。
- 在宅での生活が困難な高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためのサービスを提供する社会福祉施設の整備を進めます。
- 高齢者の状態に応じて、適切な施設に入所できるよう支援します。

■ 施策指標

指標名	現況値	目標値	備考
要支援・要介護認定率	16.3% (R2)	18.2%以下	
きらめきデイサービスの利用者数	1,340 人 (R1)	1,500 人	延べ人数(月平均)
認知症サポーター養成者数	12,526 人 (R2)	19,800 人	延べ人数
高齢者なんでも相談室への相談件数	27,937 件 (R2)	35,000 件	連絡・調整などの対応を含む

■ 施策の満足度・不満足に関する指標（現況値は令和元年の市民アンケート結果を記載）

【高齢者支援】

※令和元年に実施した市民アンケートで「重要」「やや重要」と回答した人の割合 78.9%

指標名	現況値	目標値	備考
満足している人の割合（市全体）	37.7%	55%	「満足」「やや満足」と回答した人の割合
不満を感じている人の割合	我孫子地区	10.2%	8.2%以下 「不満」「やや不満」と回答した人の割合
	天王台地区	8.5%	
	湖北地区	14.3%	
	新木地区	8.3%	
	布佐地区	10.5%	